



仏通寺落葉【臨濟宗 佛通寺派大本山 佛通寺】(写真提供：藤原敏明様)

ごあいさつ

三原地区保護司会 地域活動部長 平田 耕三



平素から、三原地区保護司会の活動に、ご理解とご尽力をいただき、深く感謝申し上げます。令和2年からの新型コロナウイルスも、5類感染症に移行したことに伴い規制が緩和され、平常通りに活動ができるようになりました。

さて、当会では、令和5年7月に第73回“社会を明るくする運動”広島県推進委員会モデル地区事業を三原市、世羅町及び更生保護関連団体との連携により実施することができました。この事業を通して、地域への啓発と共に、他地区保護司会との交流が図れました。

ICT化の推進については、ホームページに会員専

用ページの増設、オンライン講演会の受講、LINEワークスの利用促進などを行いました。これらは会の活動を周知することや会員相互の連携強化・資質向上に繋がりますので、今後も継続してまいります。

また、昨年夏、会員からの提案により処遇能力の向上を目的とした「自主勉強会」を立ち上げ、逐次開催しています。現在はロールプレイ等によって、対象者との面接で必要となる傾聴技法のスキルアップを図っています。今後は、保護司活動に関連する幅広い領域をテーマに研鑽に努めてまいります。

会員の皆様には当会の活動に対して、今後とも変わらぬご理解とご協力をよろしく願います。

ごあいさつ

三原市教育委員会 教育長 安原 敏 光



三原地区保護司会の皆様には、犯罪や非行防止に向けた啓発活動などに、日々、献身的な御活動を重ねておられますことに対し、心から敬意を表します。また、三原の宝である子どもたちの健全育成においても、日頃より多大な御支援を賜り、深く御礼申し上げます。

さて、近年、SNSの台頭や少子化・核家族化などによる人間関係の希薄化など、子どもたちを取り巻く環境の変化は大きく、また、少年犯罪や非行の実態も実に複雑化・多様化してきているように思われます。さまざまな犯罪や思いがけないトラブルなどから子どもたちを守り、健全な環境で育てていくことは、教育行政のみならず、社会全体にとって喫緊の課題です。

そのような中であって、犯罪や非行を未然に

防ぐことはもとより、罪を犯した人を社会に受け入れ、その更生を地域全体で支えていくことは、犯罪のない安全・安心な地域環境を育むことに繋がるものであり、ひいては、未来を担う子どもたちの健全育成の促進に繋がるものであると考えます。

保護司の皆様には、再犯防止の要として、より一層の御協力を賜りますようお願い申し上げます。

教育委員会としましても、学校や家庭・地域の皆様との強固な連携のもと、子どもたちが健やかに育まれる環境づくりに全力で取り組んで参ります。



第2回 定例研修会「事例研究」



8月23日、第2回定例研修会を中央公民館で開催し、井上冬基主任官から講義を受けました。今回は2つの事例を基に、処遇上の問題点や再犯リスクを低減させるためにどうするかといった観点で研修を深めました。初回面接のあり方、再犯防止に向けた環境づくりについて指導をいただきました。会員同士の活発な意見交換ができ、充実した研修会になりました。

ごあいさつ

世羅町教育委員会 教育長 早間 貴之



三原地区保護司会の皆様におかれましては、平素より、更生保護活動や「社会を明るくする運動」の実施・運営など、安心安全な地域社会づくりのためにご尽力いただ

いていることに、厚くお礼申し上げます。

さて、前回の『保護司会だより』表紙に写真を載せていただきましたが、昨年、コウノトリのペアが世羅町内で子育てをしました。これまでも飛来することはあったのですが、巣を作って子育てをするのは、広島県内では初のことです。特別天然記念物ですので、文化財保護の観点から、保護に係る諸活動への対応や対外折衝等を世羅町教育委員会が担当しました。

5月はじめに卵からふ化した後は、親が交代でエサを運び続け、3羽の子供たちはすくすくと成長していきました。途中で、個体識別のための「足環」取付作業も無事に終えて、7月中旬にははいよいよ巣立ちとなりました。両翼を広げると2mにもなるという立派な姿で、近くの野原や休耕田に

飛んで行っては、親の手ほどきでエサをついばみます。夜には巣のほか、中学校のバックネット上や、交差点の信号機の上で寝泊まりしながら、家族は常に一定の範囲内で過ごしていました。そのうちに、県外にいたはずの“いとこ”たちも合流して10月まで世羅にとどまり、仲良く過ごしておりました。

今回のコウノトリの話題は、まさに「社会を明るく」してくれたと感じています。珍しいということもありますが、家族がしっかりとつながって愛情を注ぎ、互いにかかわっていく姿を見せられました。もちろん、それは人間のために見せたのではなく、本能的なものです。ですが、私たちは自分もそうありたいと感じながら、彼らの姿を見守りました。今は、次のシーズンもこの地に戻ってきてくれることを願っているところです。

結びに、三原地区保護司会の皆様の活動一つ一つが、青少年健全育成を含む私たちの暮らしに灯りをともしてくださることに感謝し、今後ますますのご発展とご活躍を祈念しております。

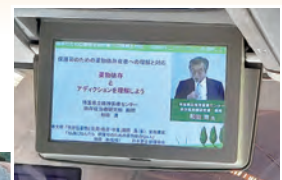
視察研修「島根あさひ社会復帰センター」

9月29日、島根あさひ社会復帰センターを16名で視察しました。

日本更生保護協会より借り受けた、和田 清先生のDVD「保護司のための薬物依存症者への理解と対応」をバスの中で視聴し、依存と嗜癖についての理解を深めました。

午後からは、これからの時代に求められる矯正を目指す施設を見学しました。

国の経験と民間のノウハウに地域の力を融合した「社会復帰支援コミュニティ」と称される施設で、従来の拘束・監禁が主目的の施設から、処遇計画をもとに受刑者の改善更生を促し、健全な社会復帰を目指すなど、新しいビジョンを備え持つ施設は、従来のイメージを覆すものでした。



三原地区更生保護顕彰式 作文・標語表彰式

11月25日、三原市中央公民館において顕彰式及び表彰式を行いました。



岡田 三原市長



奥田 世羅町長



西川 三原警察署長



久保 世羅警察署長



小林 広島保護観察所次長



保護司会 被表彰者



更生保護女性会 被表彰者

広島県更生保護功労者表彰 (敬称略)

中国地方更生保護委員会委員長表彰	大龍 昭順
中国地方保護司連盟会長表彰	渾川 雅子・西田 榮次・野々部 芳樹・福場 俊浩
広島保護観察所長表彰	桑木 良典・古島 弘喜・深水 純昭・吉田 なよ子
広島保護観察所長感謝状(家族功労)	加村 イツエ
広島県保護司会連合会会長表彰	赤石 修二・赤利 誠・石本 泰史・恵谷 元晴 岡田 邦義・岡野 哲朗・椋山 正宣・雲地 和典 播摩 英雄・森安 敦・山田 睦浩・山根 務

作文及び標語 県の入賞者 (敬称略)

第73回 “社会を明るくする運動” 作文・標語コンテスト

中学生作文の部

入選

三原市立宮浦中学校 3年 橘高 希実

「明るい未来への架け橋」

(応募数/小学校 25校 667点・中学校 14校 740点)



標語の部

広島県更生保護協会理事長賞

三原市立本郷中学校 2年 安達 彩雲

「立ち直り 一緒に歩こう その道を」

(応募数/小学校 16校 1,340点・中学校 7校 1,039点)



活動の記録



7/22 沼田本郷夏まつりで活動紹介



8/12「やっさ祭り」防犯パトロール

8/25 日本更生保護協会オンライン講演会
「不登校を大人はどう理解する？」

9/11 作文・標語コンテスト選考会

9/19 女性歌手デュオ Paix²(ペペ)
サポセン来所

9/22 本郷ブロックあいさつ運動



10/26 新任保護司研修



10/28 三原市民保健・福祉まつり



11/14 自主勉強会「傾聴」

第2回 自主研修会「社会復帰調整官の職務について」

11月25日、広島保護観察所小林靖次長から「社会復帰調整官の職務について」をテーマに、第2回自主研修会を開催しました。

心神喪失等の状態で他害行為を行った人の実態、審判、入院処遇、関連法規、地域社会における処遇等、具体的事例を交えながら分かりやすい説明をいただきました。

我々保護司が医療観察に携わることはありませんが、社会復帰への課題などのノウハウは共通するものであり、今回の研修を通じて、より幅広く理解を深めることができました。



薬物乱用防止教室

11月15日に三原市立小泉小学校、12月12日に世羅町立甲山中学校で「薬物乱用防止教室」を開催しました。小泉小学校は6年生18名と校長先生をはじめ5名の先生方そして保護司5名の参加、甲山中学校は2年生39名と校長先生をはじめ4名の先生方、保護司6名の参加でした。

普段使っている医薬品の間違った使用法、違法薬物等の使用による身体への影響、二次的影響についてパワーポイントで作成した資料や動画、クイズなども交え分かりやすく説明しました。児童・生徒からも質問が出るなど、充実した取り組みにすることができました。

今年度初めての活動でしたが、薬物乱用防止の重要性が増す中、今後も継続して進めてまいります。



三原市立小泉小学校



世羅町立甲山中学校

退任者紹介 (令和5年11月30日付)

潮 清史 さん (大和ブロック)
平田 勝史 さん (三原2ブロック)
長い間大変お世話になりました。
心よりお礼申し上げます。

編集後記

表紙写真は三原市を代表する紅葉の名所で、禅宗としては日本最西の(大阪より西では唯一の)本山格寺院です。この寺は小早川家が愚中周及禅師を迎えて創建し、最盛期には山中に塔中88、末寺3000寺を数えるほど隆盛しましたが、応仁の乱以降は権力者の変転などに翻弄された歴史ある古刹です。

余談ですが、昨年の大河ドラマに小早川秀秋が登場していました。三原城を築いた小早川隆景の養子で、関ヶ原で徳川に内通して東軍勝利の立役者となりますが、まもなく急死。小早川家が徳川幕府より「お家取り潰し」を受ける契機となった人物です。近年の歴史研究によれば、彼の逸話は後世創作されたものも多く、汚名・悪名をさせられたという見方もあるようです。更生保護の観点からみても少なからず興味深い話です。(F. K)

新任保護司の紹介

令和5年12月1日付けで、新たに会員としてお迎えしました。

榎本 邦孝さん
(三原2ブロック)



井上 忍さん
(三原5ブロック)



お問合せ先

三原地区更生保護サポートセンター

〒723-0014 三原市城町3丁目1-1 三原港湾ビル3階 303号室
TEL・FAX 0848-62-5515 e-mail: mihara-vpo@outlook.jp URL: https://mihara-vpo.com

